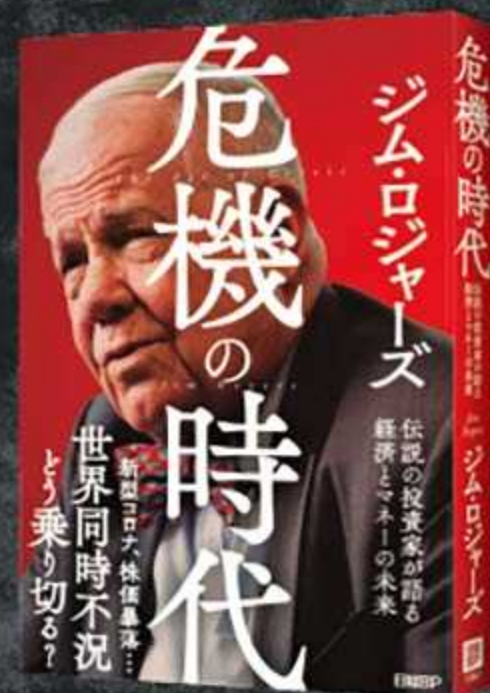


伝説の投資家が語る経済とマネーの未来

緊急出版！

危機
にこそ
チャンス
がある

ジム・ロジャーズ
危機の時代



日経BP

新型コロナ、株価暴落…世界同時不況をどう乗り切るのか？

はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、世界経済が大混乱し、各国の主要市場で株価が暴落した。企業倒産や失業者の増加に対する懸念が急速に高まっている。

私は2019年から「2008年のリーマン・ショックをはるかに超える危機が迫っている」と警告してきた。それが今、始まるうとしている。強調しておきたいのは、新型コロナウイルスはあくまできっかけに過ぎないことだ。経済危機が来ること自体は、以前から見えていた。日々の報道、例えば経済紙に毎日隅々まで目を通していたならば、

その兆しに気づいていた人も多いはずだ。

世界各国の財政状況を見てほしい。インド、トルコ、インドネシアなどの国の苦境が既に、海外の新聞の一面を飾ってきた。米国や欧州でも、経済的な問題がかなり前から起こり始めていた。

米国の経済的繁栄は長年にわたり続いた。確かに、この繁栄がずっと続いてもいいはずだと思う人も多かっただろう。

残念ながら、繁栄には必ず終わりが訪れる。もちろん、日本経済にも同じように終わりは訪れる。それでも国は存在し続けるし、なくなるわけではない。だがそれまでとは状況が変わる。

2008年にリーマン・ショックが起きた時、中国にはマネーが潤沢にあった。外貨準備も十分あった。だから、中国は蓄えておいたお金を使い、ある意味、世界経済を救うための支援をした。しかし今はその中国ですら借金漬けになっている。

「終わりの始まり」が幕を開けたのだ。中国では企業倒産が相次いでいるようだ。インドでは数年前から多くの債務不履行（デフォルト）が起こっている。大きく報じられてはいないが、最近もインドの銀行大手が破綻していた。

各方面で経済政策の行き詰まりのサインが少しずつ表面化していた。これが今後、どんどん加速していく。日本も、2008年に比べて負債総額がはるかに膨れ上がっているわけだから、決して他人事では済まされない。

今回の新型コロナウイルス対策で、経済にとって最悪だったことの一つは、ドナルド・トランプ米大統領が、米国と欧州の間の人の移動を制限したことだ。人が移動できず、直接会えず、働けなくなる。ほかに手がなかつたのかもしれないが、それこそが景気減速そのものだ。世界経済にとって最悪で、景気悪化に拍車をかけた。これから企業の経営破綻が、世界で広がっていくだろう。

人生で最悪の危機が来る

今回の危機が、過去とは違うというようなことは決してない。歴史は繰り返すからだ。リーマン・ショック後の12年間、世界中で株価が上昇していた。歴史的にも、10〜12年も株価が上がり続けるというのは極めて異例と言える。株価があまりに長期にわたって上がりすぎたら、やがて下がるのは必然だ。

長すぎる株高と同時に、世界中で負債が増えていた。借金が多すぎる時はいつも、社会に深刻な問題が潜んでいる。危機が起きると、市場が弱気になるのは当然の成り行き

で、今回も同じことだ。

世界では過剰債務などで、深刻な財政問題を抱える国が目立つ。既にレバノンが同国の歴史において初めて債務不履行を起こした。ほかにも危うい国が多くある。ブラジル、トルコ、南アフリカも危機に瀕している。

危機の本番が迫っている。次がどこになるかは分からないが、このままでは多くの国がデフォルトする可能性がある。世界中の多くの企業、多くの国、多くの自治体が過剰な債務を背負い込んできた。みんな、これからツケを払わなければならない。

過去にも危機が起こるたびに、同じようなことが起きている。「今回は違う」などと言っている人間がいたら、何も分かっていないだけだ。

2020年秋の米大統領選ではトランプが勝つだろうと、新型コロナウイルスの問題が起きるまでは考えていた。しかし、今は正直、少し自信がなくなった。トランプが、物事を悪い方へ悪い方へ進めているからだ。

与党が選挙に負けるのは、世界中のどこの国でも経済政策の失敗が原因だ。トランプは経済を悪くしようとしている。本当に米国経済を悪化させれば、トランプは選挙で負けるだろう。

とはいえ私はまだ、トランプが勝つのではないかとどこかで思っている。つまり、ト

ランプ大統領が（選挙まで）ずっと経済を悪くし続けるならば、負けるということだ。

歴史に学ぶと、景気が悪化すれば、しばしば戦争が起こる。貿易戦争になる時もあるが、軍事的な戦争になることもある。私は毎日、世界情勢を注視している。既に、戦争は起こっている。米国はアフガニスタンで長年戦争を続けており、イランとも事実上の戦争状態に入った。神のみぞ知るだが、トランプは新たな戦争を始めるかもしれない。歴史的には、経済の悪化は多くの戦争につながってきた。

現在の状況は、1939年に始まった第二次世界大戦の直前と似ているという指摘もある。私もその通りだと思っている。1930年代、世界中の国々で借金が積み上がり、貿易戦争が勃発。景気も悪化していた。そしてそれらが相まって、軍事的な対立につながっていった。

今回の危機が今後どうなるか分からないが、戦争が起きる可能性は否定できない。

1939年と現在の経済環境に数多くの類似点があるのは確かだ。

しかし絶望ばかりしても仕方がない。日本語の「危機」という漢字は、「危険」と「機会」の両方を意味する。つまりはこの危機はチャンスでもある。誰が恩恵を受けているのか、注視すべきだ。

すでに変化は始まっている。医療、コンピューター、ヘルスケアにさらに注目が集ま

る。より多くの患者が、医師の診察を受けるために自宅のコンピューターに向かって話しかけるようになるだろう。食事の宅配サービスも、これまで以上に急速に広がっていくはずだ。

すでに起こり始めていた変化が一気に加速する。オンライン教育やリモートワークもますます普及する。こうした分野はより速く、すぐに成長するのでチャンスがある。

一方で、多くの企業が経営破綻するだろう。だがこれは、競合相手にとっては朗報だ。つまり優勝劣敗が進む。こうした局面では、誰が得をするのか、よく考えてみることだ。そして投資を考えるのなら、自分自身が詳しい分野にだけ投資すべきだ。

私は金、銀、米ドルなどを所有している。また、農業関連にも投資している。それから状況次第で、ロシア、中国の株を買いたいと思っている。もしかしたら日本株も買うかもしれない。もちろん世界経済はあまりにも混乱しており、タイミングを見極める必要がある。それでもチャンスを見つければ、私は投資するつもりだ。

本書では、今起きている危機と、その予兆はどのように見えていたのか、歴史を振り返ると、過去の経済危機の際に何が起き、人々の生活にどのような影響を与えたのか、危機が起きた際に、個人や企業はどのように行動すればいいのか、世界はどこへ向かうのかについて、私の考えを述べたい。

2020年4月 ジム・ロジャーズ

第 1 章

リーマンを超える危機が到来する必然

17

- ・世界に満ちていた楽観論
- ・バブルは常にはじける
- ・危機の予言者たち
- ・深刻なインドの経済危機
- ・世界を救った中国も借金漬けに
- ・米国が抱える巨額の借金
- ・身近で起きる危機の予兆
- ・加速する無制限な金融緩和
- ・債券やETFを買いまくる中央銀行
- ・どんどん大きくなる借金のスノーボール
- ・貿易戦争に勝った国はない
- ・経済対立が戦争になる可能性
- ・戦争の最初の犠牲者は真実
- ・多くの人々は戦争を好む

- ・世界のすべての人は広島を訪れるべき
- ・経済的な問題がなかった時代はない

第 2 章

過去の危機では何が起きたのか

47

- ・いかなる賢者も危機を止められない
- ・1929年の世界恐慌の教訓
- ・瞬く間に世界中に広がった危機
- ・経済危機で大儲けした人々
- ・危機の最大の犠牲者はミドルクラス
- ・生活苦になった人々は怒りのはけ口を求める
- ・山火事は世界のために森を再生している
- ・すべてを失った経験から得たもの
- ・ニクソン・ショックが変えた世界
- ・ブラックマンデーを予想できた理由
- ・今回の危機のインパクトははるかに大きくなる
- ・いったん成功した日本が転落した理由

危機の際にどう行動すべきなのか

73

- ・すべての常識は15年で劇的に変わる
- ・危機が起きても絶望する必要はない
- ・まずしなければならぬこと
- ・みんな失敗している時こそ、チャンスがある
- ・危機の際に持つておくべき資産
- ・企業は何をすべきなのか
- ・危機への備えをしておこう
- ・常識に反するアイデアを人は信じない
- ・危機の際の人間の行動には共通点が多い
- ・逆境で生まれる投資チャンス
- ・中東戦争で得た気づき
- ・危機の際に成功する投資とは
- ・間違いをそのままにすべきでない

お金持ちになるために大事なこと

97

- ・手っ取り早く儲けようと思っはいけない
- ・豊かな生活を送るために必要な金額
- ・良い投資家になるにはバランスシートを読もう
- ・株式インデックスへの投資は有効な手段
- ・何をしているか分かっていない人が多い
- ・孔子の格言に耳を傾けよう
- ・プラトンから学べること
- ・40失敗しても、3つ成功すればいい
- ・投資するチャンスの見つけ方
- ・自分の投資スタイルを身に付けよう
- ・私は道を見出そう。さもなければ道を作ろう
- ・借り手にも貸し手にもなるな
- ・お金を正しく扱えないと人生は破滅する
- ・お金持ちが不幸になる理由
- ・持つているお金以上のものを欲しがらない
- ・経済、政治、社会の複合的な危機になる
- ・世界は多面的に読み解いた方がいい
- ・1つの情報源に頼るべきではない
- ・子どもにお金の使い方を学ばせよう
- ・人生において失敗することは重要だ

第 5 章

私の生き方

139

- ・ 準備ができていれば幸運をつかみやすい
- ・ 長期的な成功のために最も重要なこと
- ・ 米国の片田舎で育って学んだこと
- ・ 競争が少なければ、成功できる確率が高い
- ・ 「世界を見たい」という強い願い
- ・ 忍耐して、粘り強く、勉強するのが大事
- ・ 遠くに行った方が、多くのことを学べる
- ・ オックスフォードで学んだこと
- ・ ウォール街で働くようになった理由
- ・ クオンタム・ファンドを立ち上げる
- ・ 経営学より、歴史や哲学の方が人生に役立つ
- ・ 人生における最大の危機

第 6 章

世界はどこへ行くのか

159

- ・ 混迷する世界の行方
- ・ ブレグジットは英国を苦しめる
- ・ 国家が解体される可能性
- ・ EUから離脱する国が増えるリスク
- ・ 揺らぐ金融センターの地位
- ・ グーグルとアマゾンが支えるスイスフラン
- ・ 世界経済の重心は東へと動いていく
- ・ 一党独裁でも繁栄する国は多い
- ・ ロシアの農民がトランプに感謝する理由
- ・ アフリカで中国の影響力が増す必然
- ・ 外国人が勝手に決めた国境線
- ・ 薄れていく欧州との絆
- ・ 衰退しても復活した例外的な大国
- ・ 香港の暴動は自滅につながる
- ・ インドの先行きに悲観的な理由
- ・ 朝鮮半島にはチャンスがある
- ・ 日本はどうすべきか
- ・ 農業にはチャンスがある
- ・ 外国人に門戸を開かない国は衰える
- ・ 移民の力で繁栄してきた米国の変化

- ・ 歴史から教訓を得よう
- ・ 次に戦争が起きる地域
- ・ 21世紀のサラエボになる可能性

未来の正しい見方——社会の常識を疑え

205

- ・ オリンピックが国を救ったことはない
- ・ ユニコーンブームはバブルだった
- ・ アリババ株への投資はいいアイデアではない
- ・ 米国の教育を高く評価するのは間違い
- ・ 危機に瀕する米国の大学
- ・ 教育はどんどんオンライン化する
- ・ 変化の時代に求められる教育
- ・ MBAは役に立たない
- ・ 経営以外に学ぶべきことがある
- ・ ノーベル経済学賞に価値はない
- ・ 鄧小平が受賞できなかった理由
- ・ MMTはタダで食事を配るような考え方
- ・ ベーシックインカムの議論はばかげている

- ・ シリコンバレーはイノベーションの聖地でなくなる
- ・ ソフトとハードの両輪がそろう場所
- ・ 欧米のメディアの見方が正しいとは限らない
- ・ 『邪悪な国』の情報発信から学べること
- ・ CNNは見ない方がいい
- ・ 中国から得たインスピレーション
- ・ 民主主義と経済の成功はほとんど関係ない
- ・ ネズミを捕まえるネコはいいネコだ
- ・ アジアの女性不足で何が起きるのか
- ・ マリファナにも投資チャンスがある
- ・ コロナピア訪問で得た気づき
- ・ 誕生する巨大なビジネス
- ・ ブロックチェーンがもたらす破壊
- ・ 商品市場に深刻な問題が起きる
- ・ 常識とされていることを信じてはならない

訳者あとがき 262